

愛産研 ニュース

愛産研ニュース
平成 16 年 11 月 5 日発行
No.32

編集・発行
愛知県産業技術研究所 企画連携部
〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割
TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033
URL <http://www.aichi-inst.jp/>
E-mail info@mb.aichi-inst.jp

11 月号
2004

今月の内容

愛・地球博とセラミックス

万博会場で使用する陶磁器製品の開発

微気孔生成技術による高機能軽量白色磁器の開発

愛・地球博とセラミックス

明治 6 年、オーストリアのウィーンで開催された万国博覧会に日本国は初参加し、瀬戸の陶工川本楨吉らの作品は、好評を得ました。その後のフィラデルフィア・パリ等にも瀬戸から出品し、高い評価を受けました。これらはジャポニズム（東洋美術趣味）をさらに盛り上げることになりました。

2005 年 3 月 25 日より「愛・地球博」が愛知県の瀬戸市・長久手町・豊田市において開催されます。メインテーマは「自然の叡智」とされ、自然が持つ素晴らしい色々なシステムに学んで、世界中の人々との交流を通じて新しい文明・文化の実現を目指すものです。

万国博覧会にふさわしい自然環境を重視した循環型社会を目指したシステムが会場の各所で導入されようとしています。ここではセラミックスの話題性にスポットを当て、見どころを挙げます。

やきものモニュメント

瀬戸会場では直径 30m のコンクリート製の皿に瀬戸をはじめ 14 の産地と海外 7 カ国の協力を得て直径 15 ~ 20 cm の丸皿数万枚を組み合わせることで製作します。記念モニュメントになる予定です。

Re瀬戸のやきもの

廃陶磁器を回収し、精製した後 50% を再利用し 1150 の低温度で焼き上げた陶磁器です。回転寿司のお皿に IC チップを組み付けての利用が予定されています。また、会場内の水飲み場の水受けボールは直径 35 cm で 56 ヶ所に設置されます。デザインは万博のメインテーマの「自然の叡智」に沿ったもので、公募で入選した人たちが絵付けしたものです。愛・地球博のサブテーマの一つである（資源）循環型社会に向けた取り組みのひとつです。

屋根を光触媒で覆い自然の涼を

長久手会場の日本政府館では建物を巨大な竹かごで覆い、直射日光を遮っても、室内温度は 44 になり、この屋根に二酸化チタンの光触媒を覆い、屋根に水を流せば 29 まで下がると試算されています。この水は「再生した水」を再利用します。光触媒の超親水機能を応用したもので薄い水の膜で屋根を包み込み気化熱で建物を冷却します。実用化されれば世界初となり、都市部での熱がこもるヒートアイランド対策に向けて有効な実証実験の場としても注目されます。

